

裏面白紙

丙
二九二五

立案	昭和	年	月	日
決裁	昭和	年	月	日

爵位課長

宗秩寮總裁

宮内事務官

故大西虎之介位記追賜ノ件

昭和二十二年二月十五日
裁可二月九日達
臺帳記入三月十日官報報告済
記
三月十五日

四



故大西虎之介位記追賜ノ件
右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和二十年二月十五日

内閣總理大臣小磯國昭



内

閣

人運位 第一二四號
案起 昭和二十年二月 日
裁可 昭和二十年二月五日 施行
決定 昭和 年 月 日

内閣總理大臣



内閣書記官長

内閣書記官

故大西虎之介ハ別紙運輸通信
大臣稟請ノ通功績顯著ナル者
ニ候處本月九日死去、趣ニ付特
旨ヲ以テ左ノ通位記追賜、件
上奏相成然ルヘシ

内閣

故大西虎之介
特旨ヲ以テ位記ヲ追賜セラル

大西虎之介

叙従六位

二月九日付

秘恩第四三八號

昭和二十年二月十四日

運輸通信大臣 前出 米 藏



内閣總理大臣 小磯 昭 殿

稟 請

故勳三等大西虎之介ニ關スル特旨殺位ノ件

運輸通信省

故勳三等大西虎之介ハ大正十三年七月琴平電鐵株式會社代表取締役ニ就任昭和十二年六月ニ至リテ其ノ社長トナリ同十八年十一月ニハ高松琴平電氣鐵道株式會社社長ニ推サレ現在ニ至リタルモノナルカ此ノ間屋島登山鐵道株式會社ヲ始メ幾多ノ地方鐵道、軌道會社ノ重役ヲモ兼ネ實ニ二十有餘年ノ長キニ亘リテ一意地方交通ノ向上發達ニ盡瘁セル功績別紙功績調書ノ通函ニ顯著ナルモノ有之候處同人ハ二月九日病氣ノ爲死去致候ニ就テハ特ニ生前ノ功ヲ錄セラレ貴族院議員ノ功績ト併セ相當殺位万御詮議相成様致度此段及稟請候

功績調書

勳三等 大西虎之介

一、交通關係

イ、琴平電鐵株式會社關係

景山甚衛門

大正六年頃沿線地方有志ノ贊同ヲ得テ發起人代表トナリ、縣下ノ二繁都タル高松、琴平ヲ結ブ短絡線琴平電鐵株式會社設立ノ計畫ヲ樹テ、大正九年先ヅ栗林公園、琴平間ノ敷設免許ヲ受ケタリ。

然レトモ時恰モ歐洲戰爭終結後トテ財界不振ノ餘波ヲ受ケ、加之一般世人ノ交通機關ニ對スル關心薄弱ナリシ爲、其ノ進

運輸通信省

行ニ一頓座ヲ來タシ爾來荏苒日ヲ空ワセシモ、大正十三年七月ニ至リ資本金五百萬圓（內拂込五〇萬圓）ノ會社ノ設立ニ成功セリ。而シテ此ノ時新進氣鋭ノ大西虎之介ハ選バレテ其ノ代表取締役ニ推サルルヤ世人ノ嘲笑、冷視ヲ意トセズ、敢然奮闘克ク其ノ重要性ヲ力説シテ衆議ヲ纏メ、同十三年十二月設立登記ヲ完了セリ。

此ノ間東奔西走不眠不休職務ニ盡瘁、其ノ成功ヲミルニ至ラシメタルハ、一ニ同人ノ忍耐力ト卓拔ナル手腕ニ因ルモノナリ。斯ル筆舌ニ盡シ難キ困難ヲ克服シ、大正十四年十月更ニ高松、栗林公園間ノ敷設免許ヲ受クルヤ、其ノ工ヲ急ギ翌十

五年栗林公園、瀧宮間一七軒八分ヲ第一期ニ、次デ昭和二年三月瀧宮、琴平間一二軒三分、同年四月栗林公園、高松間一軒二分ト逐次營業ヲ開始セリ。之ヨリ社運次第ニ隆盛ニ赴キ、昭和十三年一月長年ニ亘ル功績ト卓越セル人格力備ニ依リ舉ケラレテ其ノ社長ニ就任スルヤ、同年七月鹽江溫泉鐵道ヲ吸收合併、其ノ路線ヲ整備シ一意業績ノ向上ニ努メ克ク今日ニ於ケル隆盛ノ因ヲ拓ケリ。

ロ、香川縣下陸上交通事業調整關係

昭和十七年八月頃ヨリ國策トシテ電鐵ヲ根幹トセル乗合自動車事業ノ統合ガ提唱セラレ、香川縣亦交通調整區域ニ指定セ

運輸通信省

ラレタル關係上、地方鐵道、軌道、乗合自動車事業者ノ三者統合ノ必要起リタルヲ以テ、同年十二月鐵道省監督局長ハ依命通牒ヲ以テ香川縣知事ニ對シ、縣下ヲ三地區ニ分チ第一地區（東讃地方）ハ左記業者ヲ以テ新設會社ヲ設立スヘキ旨指令セリ

讃岐電鐵株式會社

・琴平電鐵株式會社

高松電氣軌道株式會社

・屋島登山鐵道株式會社

・八栗登山鐵道株式會社

他バス事業者十五名

然ルニ當初之等各事業者ハ一應國策ニ順應スル意志アリタル如キモ、未ダ往年ノ自由主義思想ヨリ脱却シ得ズ、之ガ統合ノ方式、或ハ評價ノ方法ニ關シ夫々自己ニ有利ナル説ヲ主張シテ利潤追求ヲヤメズ、統合準備委員會ヲ數回ニ亘リテ開催シタルモ容易ニ解決ヲ見ズ、時宜ニ適シタル交通調整モ、之ガ爲一大暗礁ニ乘リ上ゲタル感アリタリ。

此ノ秋ニ當リ大西虎之介ハ鐵道省、香川縣等關係當局ノ指導ニ從ヒ、常ニ大乘的見地ヨリ私心ヲ捨テ率先之ガ統合ニ盡力關係者間ノ斡旋ニ努メテ、逐ニ昭和十八年十一月先ヅ琴平電

運輸通信省

鐵、讀岐電鐵、高松電氣軌道ノ三者ノ新設合併ヲ成功セシメタリ。

其ノ功績ト人徳ニ依リ同人ハ高松琴平電氣鐵道株式會社ノ新設成ルヤ推サレテ社長ニ就任セリ

越エテ翌十九年一月殘存乗合自動車事業ハ統合成リ、久シク懸案タリシ當地方ノ交通調整ハ茲ニ一段落ヲミタルカ之亦一ニ同人ノ力ニ負フモノナリ

ハ、地方産業開發並ニ時局輸送關係

大正十三年琴平電鐵株式會社ノ代表取締役ニ就任以來當地方運輸交通事業ニ携ルコト二十年余ノ久シキニ亘リ、此ノ間各

社ノ社長ヲ歷仕シテ其ノ向上ヲ圖リ、或ハ國家ノ要請ニ應ヘ
 頑迷ナル各業者ヲ説得シテ大統合ヲ完成スル等、之ガ地方產
 業開發ニ裨益スル所蓋シ甚大ナルモノアリ。特ニ支那事變勃
 發以來沿線ニ幾多ノ軍需工場、軍關係施設ノ増設セラレ、之
 ガ輸送量逐日増大セルニ即應シ、常ニ豐富ナル經驗ト卓越セ
 ル識見トニヨリ諸般ノ有效適切ナル處置ヲ講シ、人的物的逼
 迫ノ重壓ヲ克服シテ、交通機關ノ使命達成ニ邁進シ來レル業
 績ハ洵ニ顯著ナルモノアリ。

尙現在同人ノ主宰スル交通關係會社ハ左ノ通トス

高松琴平電氣鐵道株式會社（社長）

運輸通信省

資本金 五百万圓

營業杆 鐵道線 四五杆五分

軌道線 一六杆七分

屋島登山鐵道株式會社（社長）

資本金 六十五万圓（營業休止中）

八栗登山鐵道株式會社（取締役）

資本金 三十八万五千圓（營業休止中）

高松百十四銀行、四國水力電氣株式會社、日本エタニツトバイ
ブ株式會社、朝日鋼材工業株式會社、琴電證券株式會社、高松
硫黃鑛業株式會社等ノ取締役又ハ社長トシテ、地方ニ於ケル金
融、商工業等ノ振興發達ニ寄與貢獻セル外、各種委員會委員ト
シテ、又昭和六年五月以來貴族院議員トシテ國政ノ樞機ニ參電
シ、國家非常ノ克服ニ盡瘁セル功績亦至大ナルモノアリ

以上ノ如ク同人ハ大正十三年七月零平電鐵株式會社代表取締役就任以來二十有餘年ノ長キニ亘リ地方交通界ノ長老トシテ、斯業ノ發達ニ寄與貢獻セル業績ハ永ク我國地方交通發達史上ニ錄シテ推

運輸通信省

賞セラルベク其ノ功績洵ニ顯著ナルモノアリ

履 歴 書

本 籍 香川縣木田郡永上村大字永上四百拾七番地

現 住 所 香川縣高松市濱ノ町八一番地

高松琴平電氣鐵道株式會社取締役社長

勳三等 大 西 虎之介

明治貳拾參年貳月貳拾五日生

一、大正 六年 三月 東京帝國大學法學部政治學科卒業

一、大正 六年 五月 橫濱原合名會社輸出部へ入社

一、大正 十一年 四月 同上退社

一、大正 十三年 三月三十日 株式會社高松百十四銀行取締役就任

一、大正 十三年 七月二十八日 琴平電鐵株式會社代表取締役就任

一、昭和 二年 三月三十日 屋島登山鐵道株式會社取締役就任

一、昭和 三年 九月十五日 同上取締役社長就任

一、昭和 三年 八月二十一日 鹽江溫泉鐵道株式會社取締役社長就任

一、昭和 三年 十二月二十六日 四國水力電氣株式會社取締役就任

一、昭和 三年 十二月二十七日 八栗登山鐵道株式會社取締役就任

一、昭和 四年 十二月二十九日 神戸有馬電氣鐵道株式會社取締役就任

一、昭和 五年 五月 十日 四水電鐵株式會社取締役就任

一、昭和 六年 二月十二日 日本エタニットパイプ株式會社取締役就任(現在ニ至ル)

一、昭和 九年 九月十五日 朝日鋼材工業株式會社取締役就任(現在ニ至ル)

一、昭和 十二年 二月 八日 琴電證券株式會社取締役社長就任(現在ニ至ル)

一、昭和 十二年 六月二十八日 琴平電鐵株式會社取締役社長就任(現在ニ至ル)

一、昭和十三年 七月 六日 鹽江温泉鐵道株式會社取締役社長退任

(琴平電鐵株式會社ニ合併シタルニ依ル)

一、昭和十五年十二月廿八日 神戸有馬電鐵株式會社取締役退任

一、昭和十六年十一月十四日 高松硫黃鐵礦株式會社取締役社長就任(現在ニ至ル)

一、昭和十七年 三月卅一日 四國水力電氣株式會社取締役退任

(四國電氣株式會社ニ合併シタルニ依ル)

一、昭和十七年 三月卅一日 四水證券株式會社取締役退任

一、昭和十七年 七月廿六日 株式會社高松百十四銀行取締役辭任

一、昭和十八年十一月 一日 高松琴平電氣鐵道株式會社取締役社長就任(現在ニ至ル)

一、昭和 六年 五月 五日 貴族院令第一條第六號ニ依リ貴族院議員ニ任ス

一、昭和 七年 九月廿八日 議員任期終了

貴族院令第一條第六號ニ依リ貴族院議員ニ任ス

一、昭和 七年 十月 一日 昭和七年勅令第四百十五號ノ旨ニ依リ朝鮮昭和五年國勢調

査記念章ヲ授與セラル

一、昭和 九年 三月 一日 滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル建國功勞章ヲ受領シ及佩用

スルヲ允許セラル

一、昭和 九年 四月廿九日 昭和六年乃至九年事變ニ於ケル功ニ依リ勳四等瑞寶章ヲ授

ケ賜フ(八九一〇二三號)

一、昭和 十年 九月廿一日 滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル滿洲帝國皇帝訪日記念章ヲ

受領シ及佩用スルヲ允許セラル

一、昭和十一年 十月 七日 昭和十二年十月二十九日

(廢止)

小運送制度調査會委員ヲ囑託ス

一、昭和十二年十一月 八日 香川縣防空委員會委員ヲ命ス

一、昭和十三年 六月 廿日 議會制度審議會臨時委員被仰付 昭和十五年五月二十一日

(廢止)

一、昭和十四年 九月廿八日 議員任期終了

一、昭和十四年九月二十九日	貴族院令第一條第六號ニ依リ貴族院議員ニ任ス
一、昭和十五年二月十七日	醫藥制度調査會委員被仰付
一、昭和十五年四月二十九日	支那事變ニ於ケル功ニ依リ旭日小綬章ヲ授ケ賜フ
一、昭和十五年十一月十日	昭和十五年勅令第四百八十八號ノ旨ニ依リ紀元二千六百年祝典記念章ヲ授與セラル
一、昭和十六年十二月九日	滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル建國神廟創建紀念章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル(二十一萬三千二百二十三)
一、昭和十七年五月十二日	敘勳三等授瑞寶章(一二八三九九)
一、昭和十七年六月十日	拓務省委員被仰付 (昭和十七年十一月一日) 消 滅
一、昭和十七年十一月一日	大東亞省委員被仰付
一、昭和十八年六月三十日	大東亞省委員被免
一、昭和十八年七月一日	大東亞省委員被仰付
一、昭和二十年二月九日	死去

運輸通信省

大西虎之介ノ特旨叙位ニ關シ内申セル旨香川縣知事ヨリ左記ノ通電報
ヲ以テ通知アリタリ
至急官報 高松郵便局第二三〇號 二月十四日午後〇時受付

運輸通信大臣官房秘書課長 殿

本縣高松市濱ノ町勳三等大西虎之介九日逝去セシ處多年國政ニ關與シ
又運輸通信事業及實業方面ニ貢獻シ功績尠カラサルニ付叙位方本日内
申ニ付御高配ヲ乞フ
香川縣知事

裏面白紙

高松琴平電氣鐵道株式會社定款

第一章 總 則

第一條 當會社ハ高松琴平電氣鐵道株式會社ト稱ス

第二條 當會社ハ地方鐵道事業、軌道事業、旅客自動車運輸事業及之ニ關聯スル一切ノ業務ヲ營ムコトヲ以テ目的トス

第三條 當會社ハ本店ヲ高松市ニ置ク

第四條 當會社ノ公告ハ香川日日新聞ニ掲載シテ之ヲ爲ス

第二章 資本及株式

第五條 當會社ノ資本金ハ金四百五拾九萬貳千壹百圓トシ之ヲ九萬壹千八百四拾貳株ニ分チ一株ノ金額ヲ金五拾圓全額拂込トス

第六條 當會社ノ株式ハ記名式トシ壹株券、五株券、拾株券、百株券四種トス

第七條 株主又ハ其ノ法定代理人ハ氏名住所及印鑑ヲ當會社ニ届出ヅベシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ

外國ニ在ル株主ハ帝國内ニ假住所ヲ定メテ會社ニ届出ヅベシ

第八條 株式ノ譲渡ニ因リ株式ノ名義書換ヲ爲サントスルトキハ本會社所定ノ書式ニ依ル名義書替請求書ニ當事者雙方記名捺印

シ株式ト共ニ之ヲ會社ニ提出スベシ改氏名、相續其ノ他ノ事由ニ因リ株式ノ名義書換ヲ爲サントスルトキハ前項ニ準ジテ本會社ニ其ノ請求ヲ爲スベシ

第九條 株式ノ滅失又ハ紛失ニ依リ再交付ヲ要スル者ハ除權判決ヲ得タル上當會社所定ノ書式ニ依ル請求書ニ記名捺印シテ提出スベシ

株式汚損又ハ毀損シタルトキハ株主ハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ニ株式ヲ添ヘ本會社ニ之ヲ提出シ新株式ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十條 株式ニ關スル手数料ニ付テハ左ノ金額ヲ收受ス

一、名義書換、質權ノ登録、信託ノ表示並ニ之等ノ抹消

壹圓ニ付 金貳拾錢

一、株式ノ引換其ノ他新株式ノ交付

壹通ニ付 金七拾錢

第十一條 當會社ハ每營業年度ノ翌日ヨリ右營業年度ニ關スル定時總會ノ終結ノ日迄株式讓渡ニ因ル株券ノ名義書換及質權設定ノ登録、信託ノ表示並ニ之等ノ抹消ヲ停止ス
前項ノ外必要アルトキハ公告ヲナシテ一定ノ期間之ヲ停止スルコトヲ得

第三章 株主及株主總會

第十二條 當會社ノ定時株主總會ハ毎年五月、十一月臨時株主總會ハ取締役會ノ決議ニ於テ必要ト認ムル場合之ヲ招集ス

第十三條 總會ノ議長ハ社長之ニ任シ社長事故アルトキハ社長ノ指令スル取締役之ニ任ス

第十四條 株主又ハ其ノ法定代理人ハ他ノ出席株主ニ委任シテ議決權ヲ行使スルコトヲ得但シ其ノ代理人ハ委任狀ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條 總會ノ決議ハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ

決ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス但シ議長ハ自己ノ議決權ヲ行使スルコトヲ妨ゲズ

第十六條 總會ノ議事ノ經過ノ要領及其ノ結果ハ總會議事録ニ記載シ議長及出席シタル取締役及監査役之ニ署名スベシ

第四章 役員

第十七條 當會社ニ左ノ役員ヲ置ク

取締役	九名以内
監査役	三名以内

取締役代表取締役及監査役ハ當會社株主中ヨリ株主總會ニ於テ選任ス尙取締役及監査役ニ缺員ヲ生シタル場合ニ於テ法定ノ員數ヲ缺カズ且業務ニ支障ナキトキハ補缺選舉ヲ延期スルコトヲ得

第十八條 取締役ハ互選ヲ以テ社長、壹名ヲ選任ス

社長及代表取締役ハ各自會社ヲ代表ス

第十九條 取締役ノ任期ハ參年、監査役ノ任期ハ貳年トス但シ其

ノ任期ガ任期中、最終ノ決算期ニ關スル定時株主總會ノ終結前ニ滿了スルトキハ其ノ終結ニ至ル迄任期ヲ伸長ス
補缺又ハ増員ニヨル役員ノ任期ハ其ノ當時在任シタル他ノ同種役員ノ殘任期ト同一トス

第二十條 社長ハ當會社ノ一切ノ業務ヲ總理シ取締役會ノ議長トナル取締役ハ社長ヲ輔佐シ業務ヲ掌理ス
當會社業務ノ方針並ニ重要ナル業務ノ執行ハ取締役會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 取締役會ノ決議ヲ以テ相談役又ハ顧問ヲ置クコトヲ得
第二十二條 取締役及監査役ノ報酬ハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 取締役ハ取締役會ノ承認ヲ得テ同種營業ヲ目的トスル他ノ會社ノ無限責任社員又ハ取締役ト爲ルコトヲ得
第五章 計 算

第二十四條 當會社ノ營業年度ハ十一月一日ヨリ翌四月三十日迄及五月一日ヨリ十月三十一日迄トス

第二十五條 當會社ハ每營業年度ニ於ケル總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル殘額ヲ以テ利益金トシ左ノ通り處分ス
一、法定積立金 百分ノ五以上
一、役員賞與金 若干
一、退職手當積立金
一、株主配當金
一、後期繰越金

第二十六條 株主配當金ハ每營業年度末日現在ノ株主名簿ニ記載セラレタル株主ニ支拂フモノトス
株主配當金ハ其ノ支拂開始ノ日ヨリ起算シ三年以内ニ支拂ノ請求ナキトキハ之ヲ當會社ノ所得トス

第六章 附 則
第二十七條 當會社ノ負擔ニ歸スベキ創立費用ハ金五千圓以内トス

第二十八條 當會社創立ノ際ニ於テ現物出資ヲ爲スモノノ氏名、出資ノ目的タル財産ノ種類、其ノ價格及之ニ對シテ與フル株式ノ數左ノ如シ

現物出資者	財産ノ種類	其ノ價格	株式數
琴平電鐵株式會社	地方鐵道事業 之ニ屬スル一切ノ設備財産	參百四萬貳千圓也	六萬八百四拾株
讀岐電鐵株式會社	地方鐵道事業 旅客自動車運輸事業 之ニ屬スル一切ノ設備財産	壹百貳拾參萬九千圓也 貳萬四千七百八拾株	
高松電氣軌道株式會社	軌道事業 之ニ屬スル一切ノ設備財産	貳拾八萬六千壹百圓也 五千七百貳拾貳株	

第二十九條 當會社ノ株式總數九萬壹千八百四拾貳株ハ發起人ニ於テ全部之ヲ引受クルモノトス各發起人ノ引受クベキ株式數及其ノ氏名住所左ノ如シ
但シ前條ノ發起人及株式ヲ包含ス

高松市櫻町參百貳拾番地ノ壹	琴平電鐵株式會社	代表取締役 大 西 虎之介
一、六萬八百四拾株	仲多度郡多度津町大字多度津甲四百八拾四番地	讀岐電鐵株式會社
一、貳萬四千七百八拾株	代表取締役 田 中 隆	
高松市鹽上町九百八拾九番地第貳	高松電氣軌道株式會社	代表取締役 鎌 野 藤 太
一、五千七百貳拾貳株	高松市南新町四拾七番地	細 漢 宗次郎
一、五拾株	本 籍 木田郡氷上村大字氷上參千八百七拾六番地	
現住所 高松市濱ノ町八拾壹番地		

一、五拾株

大 西 虎之介

本 籍

木田郡氷上村大字氷上參千八百七拾六番地

現住所

高松市七番丁貳拾番地

一、五拾株

大 西 禎 夫

木田郡西植田村大字西植田イ貳百七拾九番戸

一、五拾株

鎌 野 藤 太

坂出市坂出町參千五百四拾壹番地

一、五拾株

鎌 田 憲 夫

三豐郡和田村大字和田甲壹千貳百參拾七番地

一、五拾株

田 中 隆

仲多度郡多度津町大字多度津甲五百五拾壹番地

一、五拾株

武 田 謙

本 籍

高松市天神前百拾壹番地

現住所

高松市七番丁參拾參番地

一、五拾株

中 村 實

本 籍

綾歌郡栗熊村大字栗熊東八拾九番戸

寄 留

高松市四番丁五拾壹番地

一、五拾株

熊 田 長 造

本 籍

高松市本町貳拾八番地

現住所

高松市中新町壹百貳拾七番地ノ貳

一、五拾株

日 下 香 吉

右高松琴平電氣鐵道株式會社設立ノ爲、此定款ヲ作成シ發起人一
同左ニ署名捺印ス。

昭和十八年九月十八日

昭和拾九年上半年

第壹回營業報告書

高松市櫻町參百貳拾番地ノ壹

高松琴平電氣鐵道株式會社

第一回營業報告書

高松市櫻町參百貳拾番地ノ壹

第一回營業報告書

自昭和十八年十一月一日
至昭和十九年四月三十日

高松市櫻町參百貳拾番地ノ壹

高松琴平電氣鐵道株式會社

當期間ニ於ケル當社營業報告書並ニ財産目錄、貸借對照表、損益計算書ヲ作製シ報告スルコ
ト左ノ如シ

第一、庶務概要

一、株主總會

一、臨時株主總會 昭和十八年十一月廿二日臨時株主總會ヲ開催シ東讃地區ニ於ケル高松市
街バス株式會社外十四事業者ノ旅客自動車運輸事業讓受ニ關スル契約書承認ノ件並ニ右
讓受ニ伴フ資本増加及定款變更ノ件ヲ附議シ何レモ承認可決ス

昭和十九年二月廿一日臨時株主總會ヲ開催シ高松市街バス株式會社外十四事業者ノ旅客自動車運輸事業譲受ニヨル増資決定ノ報告並ニ商法第參百五拾四條ニヨル監査役ノ調査報告アリ満場異議ナク承認ス

二、株 式

一、當社ノ株式ハ琴平電鐵株式會社、讚岐電鐵株式會社、並ニ高松電氣軌道株式會社ノ三社ヨリ鐵道、軌道事業及旅客自動車運輸事業ヲ現物出資ニヨリ發起人設立セシモノニシテ之レガ發起人ニ對スル交付株式此ノ株數九一、八四二株及東讃地區ニ於ケル高松市街バス株式會社外十四名ヨリ譲受ケタル旅客自動車運輸事業ノ現物出資ニ對スル交付株式此ノ株數八、一五八株合計現在株數一〇〇、〇〇〇株、株主數二十九名ナリ

一、當期間ニ於ケル株式異動一件此株數拾株ナリ

三、商 業 登 記

一、會社設立登記 昭和十八年十一月一日完了

一、資本増加登記 昭和十九年三月一日終了

四、行政廳へ申請事項

一、本期間提出シタル諸願届ノ主ナルモノ左ノ如シ

官 公 署 名	作 名	願 届 年 月 日	指 令 年 月 日
運輸通信大臣	經理統制令關係事項認可申請ノ件	昭和一八、一、一	昭和一八、一、一
香川縣知事	賃金規則ノ件	ク一八、一、一	ク一八、一、一
運輸通信大臣	旅客自動車運輸事業譲受許可申請ノ件	ク一八、一、一	ク一八、一、一
大藏大臣	臨時資金調整法ニヨル資本増加認可申請ノ件	ク一八、一、一	ク一八、一、一
高松地方裁判所	旅客自動車運輸事業譲受ニ伴フ検査役選任並ニ検査役調査事項ノ適用除外申請ノ件	ク一八、一、一	ク一八、一、一

運輸通信大臣	旅客運賃變更ノ件	ク 一九、二、二三	ク 一九、三、一五
鐵軌統制會	旅客自動車運輸事業運賃變更ノ件	ク 一九、三、八	ク 一九、四、一三
運輸通信大臣	停車場ヲ修繕場ニ變更認可申請ノ件	ク 一九、三、一一	ク 一九、四、一四
運輸通信大臣	私設電話變更許可申請ノ件	ク 一九、三、二七	ク 一九、四、二二

四

第二、營業概況

一、電車、自動車運輸事業

一、琴平電鐵、讚岐電鐵、高松電氣軌道ノ三社ヨリ現物出資ヲ受ケ發起人設立ニヨリ昭和十八年十一月一日當社創立業務ヲ開始スルト共ニ爾來各般ノ整備ニ力ヲ致シ尙四月一日ヨリ省線ノ旅客運賃改正ニ伴ヒ當社ニ於テモ運賃改正ヲ實施シ戰時下國策ニ順應シツツ交通業者トシテノ使命完遂ニ努力ノ結果豫期ノ成績ヲ擧ケ得タルハ欣幸トスル所ナリ

一、東讃地區内ニ於ケル高松市街バス株式會社外十四名ノ旅客自動車運輸事業ヲ譲受ケ本年

三月一日ヨリ一體的機構ノ下ニ營業ヲ開始セリ本統合ニ付テハ車輛其他ノ保守並ニ時局下輸送機關トシテノ重要性ニ鑑ミ之レガ管理、整備上昨年十二月一日ヨリ當社ニ於テ假營業ヲナセリ本期ハ實動率ニ於テ銳意努力ノ結果漸次克服サレシガ未ダ前途ニハ代燃車ノ計畫の早期保守、修理工場充實ニヨリ實動率ノ確保、合理的運營ニヨリ重點輸送等ノ諸問題累積セルモ逐次改善ニ努メツツアリ統合後日尙淺ク然モ過度的諸種ノ關係上其ノ業績實ニ遺憾トスルモノアリ

財 産 目 録

昭和19年4月30日現在

科 目	金 額	摘 要
高松平間鐵道建設費	2,781,043.710	高松平間線路及車輛建物一切
公園前間	592,327.410	公園前志度間
築港公園前間	473,232.270	築港公園前間
高松尾間	256,992.220	高松尾間
自動車興業費	570,463.330	高松市内各線、撫江線、由佐線、香西線、大川線、西種田線、川東線、外線路興業費
旅客誘致設備費	19,475.000	琴平線阿木遊園地土地、建物、諸設備
所有土地	67,927.000	高松市塩上町外宅地及田、大川郡長尾町西觀音外田及宅地、琴平線復線用地
仮出金	32,796.580	連絡運輸金及小拂資金外
未收入金	84,316.860	連絡運輸金、郵便物運送料外
預金	557,293.330	高松百十四銀行及中國銀行高松支店
國債貯金	186,710.080	引繼職員退職金
貯藏物品	244,876.030	營業用事務用品一切
仮出物品	70,294.100	〃
國債	2,744.000	引繼役員退職金
有價証券	1,250.000	日本瓦斯本炭株式會社株式10口、香川縣自動車運送事業組合出資金15口
現金	1,640.320	手許在高
合 計	5,943,382.240	

七

48

貸 借 對 照 表

昭和19年4月30日現在

借 方	貸 方
科 目	科 目
高松平間鐵道建設費	資本金
公園前間	未拂金
築港公園前間	仮受金
高松尾間	通行税
自動車興業費	職員積立金
旅客誘致設備費	引繼役員退職金
所有土地	引繼職員退職金
仮出金	當期利益金
未收入金	
預金	
國債貯金	
貯藏物品	
仮出物品	
國債	
有價証券	
現金	
合 計	合 計

六

損益計算書

自昭和18年11月1日至昭和19年4月30日

收入之部		支出之部	
科目	金額	科目	金額
鐵道營業收入	円	鐵道營業費	円
客車收入	808,833,490	保存費	52,185,920
運輸雜收入	1,516,140	電車費	89,793,920
雜收入	1,819,700	運輸費	63,155,940
各事業關聯營業收入分當額	897,430	總務費	5,090,560
計	813,066,760	諸事業關聯稅	2,850,080
		各事業關聯費分損額	198,204
		各事業關聯費分損額	40,700,798
		計	258,975,432
軌道營業收入		軌道營業費	
客車收入	228,654,000	保存費	18,277,480
貨車收入	596,650	電車費	22,752,590
運輸雜收入	384,460	運輸費	23,317,120
雜收入	2,288,360	總務費	1,247,290
各事業關聯營業收入分當額	248,520	諸事業關聯稅	1,975,440
計	232,171,990	各事業關聯費分損額	63,256
		各事業關聯費分損額	12,719,000
		計	80,352,176
自動車營業收入		自動車營業費	
營業收入	210,575,270	營業費	166,611,680
各事業關聯營業收入分當額	234,710	各事業關聯費分損額	160,250
計	210,809,980	各事業關聯費分損額	31,373,532
		計	198,145,462
		雜損	12,134,440
		鐵道建設費	144,042,400
		償還費	99,485,810
		自動車興業費	467,912,930
		減價利益金	
合計	1,256,048,730	合計	1,256,048,730

利益金處分

一金四拾六萬七千九百拾貳圓九拾參錢也

此ノ處分

一金貳拾萬圓也
 一金參萬圓也
 一金七萬六千圓也
 一金壹萬參千圓也
 一金拾四萬壹千八百四拾貳圓也
 一金七千七拾圓九拾參錢也

當期利益金
 法定準備金
 退職慰勞準備金
 納稅積立金
 役員賞與及交際費
 配當金(年六分)
 後期繰越金

右ノ通りニ候也

昭和十九年五月

訂 正

訂正理由	撮影ミスのため
訂正個所	直前の / コマ取消 / コマ再撮影
訂正年月日	平成 22 年 8 月 30 日
このフィルムは、上記の理由で取消又は再撮影し訂正しました。 撮影者 塩崎伸一郎 (印) 受託責任者 富士フィルム株式会社 産業機材事業部 佐々木 格 (印)	

損益計算書

自昭和18年11月1日至昭和19年4月30日

収入之部		支出之部	
科目	金額	科目	金額
鐵道營業收入		鐵道營業費	
客車收入	808,833,490	保電運送	52,185,920
運輸雜收入	1,516,140	存車輪係	89,793,920
雜收入	1,819,700	營業費	63,155,940
各事業關聯營業收入分當額	897,430	營業費分損額	5,020,580
計	813,066,760	營業費分損額	2,850,080
		營業費分損額	198,204
		營業費分損額	40,700,798
		計	253,975,422
軌道營業收入		軌道營業費	
客車收入	228,654,000	保電運送	18,277,480
貨車收入	596,650	存車輪係	22,752,590
運輸雜收入	384,460	營業費	23,317,120
雜收入	2,288,360	營業費分損額	1,247,200
各事業關聯營業收入分當額	248,520	營業費分損額	1,975,440
計	232,171,990	營業費分損額	63,256
		營業費分損額	12,719,000
		計	80,352,176
自動車營業收入		自動車營業費	
營業收入	210,575,270	營業費	166,611,680
各事業關聯營業收入分當額	234,710	營業費分損額	160,250
計	210,809,980	營業費分損額	31,373,532
		營業費分損額	128,145,462
		計	12,134,440
		損減	144,042,490
		損減	99,485,810
		損減	467,912,930
合計	1,256,048,730	合計	1,256,048,730

八

めくれず

利益金處分

一金四拾六萬七千九百拾貳圓九拾參錢也

此ノ處分

當期利益金

一金貳拾萬圓也

一金參萬圓也

一金七萬六千圓也

一金壹萬參千圓也

一金拾四萬壹千八百四拾貳圓也

一金七千七拾圓九拾參錢也

法定準備金
退職慰勞準備金
納稅積立金
役員賞與及交際費
配當金(年六分)
後期繰越金

右ノ通りニ候也

昭和十九年五月

九

49

九、八、三											
八、五、八	八、七	八、二	八、一	二、六	二、七	二、五	六、六	八、四	一、四、六	三、三	二、三、三
100,000	八、七	八、二	八、一	二、六	二、七	二、五	六、六	八、四	一、四、六	三、三	二、三、三
合	高	木	大	大	木	高	木	大	香	香	水
	松	田	川	川	田	松	田	川	川	川	田
計	市	郡	郡	郡	郡	市	郡	郡	郡	郡	市

裏面白紙

内閣人關第ニ七

第 六 五

昭和二十年二月十二日

貴族院書記官長 小林 次郎

内閣總理大臣 小磯 國昭 殿

上 申

貴族院議員勳三等 大西 虎之介

右者本月九日死去致候ニ付テハ此際特ニ位階陞叙ノ恩典ニ浴セ
シメラルル様御詮議相成度別紙履歴書並功績書相添此段上申候
也

追而運輸通信省ヨリモ別ニ上申有之筈ニ付爲念申添候

貴族院

功 績 書

貴族院議員勳三等 大 西 虎 之 介

右者本月九日死去セル處同議員ハ別紙履歷書記載ノ通大正六年東京帝國大学法学部政治学科ヲ卒業シ爾來株式會社高松百十四銀行、四國水力電氣株式會社、神戸有馬電氣鐵道株式會社、鹽江溫泉鐵道株式會社（社長）各取締役及現在琴平電鐵株式會社、屋島登山鐵道株式會社、高松琴平電氣鐵道株式會社各代表取締役社長、八栗登山鐵道株式會社、日本エタニツトバイ株式會社各取締役等ニ就職シ主トシテ地方ニ於ケル金融ノ發達及交通網ノ充實ノ爲多年ニ亘リ大イニ努力アリタリ。

昭和六年五月貴族院多額納稅者議員ニ勅任セラレ以後更ニ勅任ヲ重ネテ今日ニ至ルマデ約十四年間在職シ其間各帝國議會ニ於テ豫算、決算、請願、資格審査等ノ常任委員並昭和七年法律第一號中改正法

貴 族 院

律案、辯護士法改正法律案外一件、裁判所構成法中改正法律案外一件、原蠶種管理法案外一件、日本銀行金買入法案、昭和九年法律第五號中改正法律案、刑法中改正法律案外十六件、大正十二年法律第五十二號中改正法律案、米穀自治管理法案外二件、酒造組合法中改正法律案、朝鮮事業公債法中改正法律案外一件、酒造組合法中改正法律案、產金法案外七件、臨時船舶管理法案、商法中改正法律案外二件、重要礦物増產法案外二件、陸上交通事業調整法案、兵役法中改正法律案、鑛業法中改正法律案、產金法中改正法律案外一件、輕金屬製造事業法案外二件、牧野法中改正法律案、鑛業法中改正法律案外二件、留萌鐵道株式會社及新潟臨港開發株式會社所屬鐵道買收ノ爲公債發行ニ關スル法律案外三件、東亞海運株式會社法案、蠶絲業統制法案、恩給法中改正法律案外二件、帝國鑛業開發株式會社法案、中改正法律案外一件等重要ナル多數法律案ノ特別委員ニ舉ゲラレ常

ニ情勵恪勤克ク議員タルノ本分ヲ守リ慎重審議以テ協贊ノ任ヲ竭シ
殊ニ今次戰爭開始以來ハ每議會ニ提出セラレタル關係法律案並豫算
案成立ノ爲大イニ努力アリタリ。
他面議會制度審議會臨時委員、醫藥制度調査會委員、拓務省及大東
亞省委員等ヲ仰付ケラレ重要國務ノ審議ニ參與シテ銳意獻替ノ忱ヲ
效セリ。
更ニ又會派交友俱樂部ノ交渉委員トシテ多年部内ノ連絡或ハ融和統
制ノ爲盡力シ以テ憲政ノ圓滿ナル進行ニ寄與セル等其功績定ニ顯著
ナルヲ確認ス

貴族院

貴族院

一四	九	二八	議員任期終了	
一五	二	二九	貴族院令第一條第六號ニ依リ貴族院議員ニ任ス	
	四	一七	醫藥制度調査會委員被仰付	内閣
	二	二九	支那事變ニ於ケル功ニ依リ旭日小綬章ヲ授ケ賜フ	賞勳局
	一一	一〇	昭和十五年勅令第四百八十八號ノ旨ニ依リ紀元二千六百年祝典記念章ヲ授與セラル	同
一六	一二	九	滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル建國神廟創建紀念章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許セラル(三十一万三千二百三十三)	同
一七	五	一二	敘勳三等授瑞寶章(一二八三九九)	同
	六	一〇	拓務省委員被仰付(昭和十七年十一月一日)	内閣
	一一	一	大東亞省委員被仰付	同
一八	六	三〇	大東亞省委員被免	同
	七	一	大東亞省委員被仰付	同
二〇	二	九	死去	

裏面白紙

二號昇紙

丙午三月二日
一 故大西虎之介

右特旨ヲ以テ敍位相成候ニ付位記竝辭令及回送候
條傳達方御取計有之度候也

昭和二十年二月十五日

宗秩寮總裁子爵 武者小路公共

運輸通信大臣

宮内省